

三陸新報

漁業の大切さを伝える

普及させる会 日南で食育授業

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(白井壯太郎会長)がこのほど、カツオ一本釣り漁で縁が深い宮崎県日南市を訪れ、小学校で食育授業を行った。一本釣り船の元漁労長による講話や、メカジキを使った給食を通して子供たちに漁業の大切さを伝えた。

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(白井壯太郎会長)がこのほど、カツオ一本釣り漁で縁が深い宮崎県日南市を訪れ、小学校で食育授業を行った。一本釣り船の元漁労長による講話や、メカジキを使った給食を通して子供たちに漁業の大切さを伝えた。

NPO法人宮崎文化本舗と連携した企画。普及させる会の白井会長や文化本舗のメンバー、日南市南郷町の一本釣り船第88正丸の元漁労長・上牧英雄さんが南郷小と吾田東小を訪問した。

南郷小では6年生55人を前に、白井会長が東日本大震災時にあらためて感じた食、人の



講師を務めた上牧さん(普及させる会提供)

上牧さんは自身の現

役時代の映像をスクリーンに映しながら、船が気仙沼のカツオ水揚げ21年連続日本一を支えていることも話した。

タブレット端末を使って気仙沼と日南の魚や、魚を使った郷土料理を調べる学習も行った。後日、日南市内の小学校で、メカジキを使ったコロッケ計4500個を提供した。

白井会長は「気仙沼と同じで子供たちが水産業に触れる機会が少なくと感じたが、誇れる産業が地元にあることを伝えられたと思う。今後は日南の郷土料理を気仙沼で提供できれば」と話している。